TADOKU JUNIOR　イギリスの昔話　★★★★☆ ながい　936語

The Story of the Three Little Pigs

3びきの子ブタ

Joseph Jacobs（1890年の本）　**原文そのまま**　朗読：Joy Chan

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　運だめしに出た3びきの子ブタが、わら、ハリエニシダ、レンガで家をたてます。そこへやってきたのはオオカミ。「フーッとふいて、ふきとばしてやる！」



There was an old sow with three little pigs, and as she had not enough to keep them, she sent them out to seek their fortune. The first that went off met a man with a bundle of straw, and said to him:

“Please, man, give me that straw to build me a house.”

Which the man did, and the little pig built a house with it. Presently came along a wolf, and knocked at the door, and said:

“Little pig, little pig, let me come in.”

To which the pig answered:

“No, no, by the hair of my chiny chin chin.”

The wolf then answered to that:

“Then I'll huff, and I'll puff, and I'll blow your house in.”

So he huffed, and he puffed, and he blew his house in, and ate up the little pig.

The second little pig met a man with a bundle of furze, and said:

“Please, man, give me that furze to build a house.”

Which the man did, and the pig built his house. Then along came the wolf, and said:

“Little pig, little pig, let me come in.”

“No, no, by the hair of my chiny chin chin.”

“Then I'll puff, and I'll huff, and I'll blow your house in.”

So he huffed, and he puffed, and he puffed, and he huffed, and at last he blew the house down, and he ate up the little pig.

The third little pig met a man with a load of bricks, and said:

“Please, man, give me those bricks to build a house with.”

So the man gave him the bricks, and he built his house with them. So the wolf came, as he did to the other little pigs, and said:

“Little pig, little pig, let me come in.”

“No, no, by the hair of my chiny chin chin.”

“Then I'll huff, and I'll puff, and I'll blow your house in.”

Well, he huffed, and he puffed, and he huffed and he puffed, and he puffed and huffed; but he could not get the house down. When he found that he could not, with all his huffing and puffing, blow the house down, he said:

“Little pig, I know where there is a nice field of turnips.”

“Where?” said the little pig.

“Oh, in Mr. Smith's Home-field, and if you will be ready tomorrow morning I will call for you, and we will go together, and get some for dinner.”

“Very well,” said the little pig, “I will be ready. What time do you mean to go?”

“Oh, at six o'clock.”

Well, the little pig got up at five, and got the turnips before the wolf came (which he did about six) and who said:

“Little Pig, are you ready?”

The little pig said: “Ready! I have been and come back again, and got a nice potful for dinner.”

The wolf felt very angry at this, but thought that he would be up to the little pig somehow or other, so he said:

“Little pig, I know where there is a nice apple-tree.”

“Where?” said the pig.

“Down at Merry-garden,” replied the wolf, “and if you will not deceive me I will come for you, at five o'clock tomorrow and get some apples.”

Well, the little pig bustled up the next morning at four o'clock, and went off for the apples, hoping to get back before the wolf came; but he had further to go, and had to climb the tree, so that just as he was coming down from it, he saw the wolf coming, which, as you may suppose, frightened him very much. When the wolf came up he said:

“Little pig, what! are you here before me? Are they nice apples?”

“Yes, very,” said the little pig. “I will throw you down one.”

And he threw it so far, that, while the wolf was gone to pick it up, the little pig jumped down and ran home. The next day the wolf came again, and said to the

little pig:

“Little pig, there is a fair at Shanklin this afternoon, will you go?”

“Oh yes,” said the pig, “I will go; what time shall you be ready?”

“At three,” said the wolf. So the little pig went off before the time as usual, and got to the fair, and bought a butter-churn, which he was going home with, when he saw the wolf coming. Then he could not tell what to do. So he got into the churn to hide, and by so doing turned it round, and it rolled down the hill with the pig in it, which frightened the wolf so much, that he ran home without going to the fair. He went to the little pig's house, and told him how frightened he had been by a great round thing which came down the hill past him. Then the little pig said:

“Hah, I frightened you, then. I had been to the fair and bought a butter-churn, and when I saw you, I got into it, and rolled down the hill.”

Then the wolf was very angry indeed, and declared he would eat up the little pig, and that he would get down the chimney after him. When the little pig saw what he was about, he hung on the pot full of water, and made up a blazing fire, and, just as the wolf was coming down, took off the cover, and in fell the wolf; so the little pig put on the cover again in an instant, boiled him up, and ate him for supper, and lived happy ever afterwards.

和訳 3びきの子ブタ（The Story of the Three Little Pigs）

あるところに、お母さんブタと3びきの子ブタがいました。お母さんブタは子ブタたちをやしなっていけなくなったので、子ブタたちを、運だめしの旅に出しました。さいしょに出かけた子ブタは、わらのたばを持った男の人に会って、言いました。

「おじさん、おねがいです。家をたてたいので、そのわらをください。」

男の人がわらをくれたので、子ブタはそのわらで家をたてました。まもなく、オオカミがやってきて、戸をたたいて言いました。

「子ブタくん、子ブタくん、中に入れておくれ。」

すると子ブタは答えました。

「いやだよ、いやだよ、ぼくのあごのおひげにかけて。」

するとオオカミは、こう言いかえしました。

「それなら、フーッとふいて、プーッとふいて、おまえの家をふきとばしてやる。」

そしてオオカミは、フーッとふいて、プーッとふいて、家をふきとばし、子ブタを食べてしまいました。

2ばんめの子ブタは、ハリエニシダのたばを持った男の人に会って、言いました。

「おじさん、おねがいです。家をたてたいので、そのハリエニシダをください。」

男の人がくれたので、子ブタは家をたてました。するとオオカミがやってきて言いました。

「子ブタくん、子ブタくん、中に入れておくれ。」

「いやだよ、いやだよ、ぼくのあごのおひげにかけて。」

「それなら、プーッとふいて、フーッとふいて、おまえの家をふきとばしてやる。」

そしてオオカミは、フーッとふいて、プーッとふいて、プーッとふいて、フーッとふいて、とうとう家をふきたおし、子ブタを食べてしまいました。

3ばんめの子ブタは、レンガをどっさり運んでいる男の人に会って、言いました。

「おじさん、おねがいです。家をたてたいので、そのレンガをください。」

男の人がレンガをくれたので、子ブタはそのレンガで家をたてました。そこへ、ほかの子ブタたちのときと同じように、オオカミがやってきて言いました。

「子ブタくん、子ブタくん、中に入れておくれ。」

「いやだよ、いやだよ、ぼくのあごのおひげにかけて。」

「それなら、フーッとふいて、プーッとふいて、おまえの家をふきとばしてやる。」

さて、オオカミは、フーッとふいて、プーッとふいて、フーッとふいて、プーッとふいて、プーッとふいて、フーッとふきました。でも、家をたおすことはできませんでした。いくらフーフープープーふいても家をふきたおせないとわかると、オオカミは言いました。

「子ブタくん、おいしいカブの畑があるところを知っているよ。」

「どこ？」と子ブタは言いました。

「ああ、スミスさんのうちの畑さ。明日の朝、したくをしておいてくれたら、むかえに行くよ。いっしょに行って、夕ごはんのカブをとってこよう。」

「いいよ」と子ブタは言いました。「したくしておくよ。何時に行くつもり？」

「そうだな、6時にしよう。」

さて、子ブタは5時におきて、オオカミが来る前にカブをとってきました。オオカミは6時ごろにやってきて、言いました。

「子ブタくん、したくはできたかい？」

子ブタは言いました。「できたかって！ぼくはもう行って帰ってきたよ。夕ごはんのカブも、おなべいっぱいとってきたよ。」

オオカミはこれを聞いてとてもはらを立てましたが、なんとかして子ブタをだしぬいてやろうと考えて、言いました。

「子ブタくん、おいしいリンゴの木があるところを知っているよ。」

「どこ？」と子ブタは言いました。

「メリーガーデンのほうさ」とオオカミは答えました。「もしきみがぼくをだまさないなら、明日の朝5時にむかえに行くから、リンゴをとりに行こう。」

さて、子ブタはつぎの朝4時に大いそぎでおきて、オオカミが来る前に帰ってこようと、リンゴをとりに出かけました。ところが、こんどは遠くまで行かなくてはならないうえに、木にのぼらなくてはならなかったので、ちょうど木からおりようとしたとき、オオカミがやってくるのが見えました。もちろん、子ブタはとてもこわくなりました。オオカミはやってくると言いました。

「子ブタくん、おや！ぼくより先に来ていたのかい？おいしいリンゴかい？」

「うん、とってもおいしいよ」と子ブタは言いました。「1つなげてあげるね。」

そして子ブタがリンゴをうんと遠くまでなげたので、オオカミがそれをひろいに行っているあいだに、子ブタは木からとびおりて、家へにげて帰りました。つぎの日、オオカミはまたやってきて、子ブタに言いました。

「子ブタくん、今日の午後、シャンクリンで市があるんだ。行かないかい？」

「うん、行くよ」と子ブタは言いました。「何時にしたくができる？」

「3時だ」とオオカミは言いました。そこで子ブタは、いつものように時間より早く出かけて市に行き、バターを作るたるを買いました。それを持って帰るとちゅう、オオカミがやってくるのが見えました。子ブタは、どうしたらいいかわからなくなりました。そこで、かくれようとたるの中に入りました。するとたるがころがりだして、子ブタを入れたまま、坂をころころころがりおりていきました。それを見たオオカミはびっくりして、市にも行かずに、家へにげて帰りました。オオカミは子ブタの家へ行って、大きな丸いものが坂をころがりおりてきて、そばを通りすぎていったので、とてもこわかったと話しました。すると子ブタは言いました。

「ははあ、それならきみをこわがらせたのは、ぼくだよ。ぼくは市に行ってバターを作るたるを買ったんだ。それで、きみが見えたから、たるの中に入って、坂をころがりおりたのさ。」

するとオオカミはかんかんにおこって、子ブタを食べてやる、えんとつからおりていってやるぞ、と言いました。オオカミが何をしようとしているのかわかると、子ブタは水をいっぱい入れた大なべを火にかけて、火をどんどんもやしました。そしてオオカミがおりてきたちょうどそのとき、ふたをとりました。オオカミはなべの中へ落ちました。子ブタはすぐにまたふたをして、オオカミをにて、夕ごはんに食べてしまいました。そして、それからずっとしあわせにくらしました。

たんご と クイズ 3びきの子ブタ

straw わら	**wolf** オオカミ	**bricks** レンガ
turnips カブ	**apples** リンゴ	**butter-churn** バターを作るたる
chimney えんとつ	**pot** 大なべ	

Q1 3ばんめの子ブタは、何で家をたてましたか？

① わら　② レンガ　③ ハリエニシダ

Q2 子ブタはオオカミをだしぬくために、どうしましたか？

① やくそくより早くおきて出かけた　② オオカミをよびに行った　③ ずっと家でねていた

Q3 市でオオカミを見た子ブタは、どこにかくれましたか？

① 木の上　② 大なべの中　③ バターを作るたるの中

こたえ

Q1 ② 3ばんめの子ブタは、レンガで家をたてました。オオカミがいくらふいても、家はたおれませんでした。

Q2 ① オオカミが6時に来ると言ったので、子ブタは5時におきて、オオカミが来る前にカブをとってきました。

Q3 ③ 子ブタがたるの中にかくれると、たるがころがりだして坂をころがりおり、オオカミはびっくりしてにげました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #7439（Joseph Jacobs、1890年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Joy Chan（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。